

<書評>

「実物に勝るものはない」を実感できるアトラス

「解剖学カラーアトラス 第9版」

J. W. Rohen, 横地 千仞, E. Lütjen-Drecoll ●著

評者 大塚 愛二(環太平洋大特任教授・体育学部健康科学科/メディカルセンター長)

「ローエン&横地」の愛称で親しまれる『解剖学カラーアトラス』が7年ぶりに改訂され、第9版が出版された。これまでも解剖実習室でよく使われてきた人体解剖アトラスである。このアトラスの最大の特長は、初版以来変わらず、精密に解剖された人体解剖標本を極めてクリアに撮影した写真にある。ここまで精緻に剖出するためには、高度な技術に裏付けられた多大な労力と時間を費やしているはずで、写真による解剖アトラスとして他の追随を許さない。

通常の解剖アトラスは、伝統的な手描きの解剖図または近年主流となったコンピュータグラフィックス(CG)である。これらは理解しやすく、立体感のあるものも多い。基本的に著者の意図に沿って描かれていて、一般的な教科書の記載とマッチしていてわかりやすい。しかしながら、時に小さいものや細かいものも多少強調されて大きく太く描かれている場合がある。これは、理解するためにはよいのだが、解剖実習でどのようなものを目印にして剖出すればいいのかを見当づけるためには、時として混乱を招くこともある。一方、写真は著者の意図とは無関係に、そこに存在するものをそのままのサイズ感で写し出す。細い神経は細く、太いものは太く写る。学習者は、解剖実習のときにどの程度の大きさのものをどこで探せばよいのかをあらかじめイメージできる。

リアルな写真の解剖アトラスは、医学・歯学以外の医療専門職の学生など、実際の解剖実習に立ち

会う機会の少ない学習者にとって、さらに価値あるものとなる。図や模型による理解は、概念的に理解するにはよいが、実際の構造をイメージするためには実際の解剖をするのが最も良いのである。しかし、実際の解剖の機会に恵まれない場合、本書のようリアルな写真アトラスは、実際に解剖された人体の構造をイメージするのに役立つ。

今版では、新たに「学習ボード」が加わった。体幹、上肢、下肢、頭頸部の脈管、神経、筋について、簡潔な図表を用いてまとめている。うまくできているのは、本体の写真アトラスのページが参照されていることである。学習者は写真アトラスと学習ボードをうまく組み合わせて使うことによって知識を整理することができ、学習で得られた知見を反すうすることができるだろう。また、CT像やMR像もさらに充実してきた。これらは、実際の臨床場面で必要不可欠なもので、解剖学の知識を臨床に応用できるものへと深めてくれる。

著者のお一人である横地千仞先生は、2018年に満百歳を迎えられ、今もお元気でいらっしゃるとのことである。その元気なエネルギーが伝わってくるような本書は、医療系の全ての学習者にとって、ヒトの生命の不思議を伝えてくれる一冊である。

●「解剖学カラーアトラス 第9版」

A4・頁632 2023年02月

定価: 13,200円(本体12,000円+税10%)

[ISBN978-4-260-05048-7] 医学書院刊